Ｗｅねっと

【108 号】

和歌山県介護支援専門員協会　西牟婁田辺支部
〒646-0028　田辺市高雄１丁目 23-1
（田辺市田辺地域型地域包括支援センター内）

令和５年度
8/8 号

TEL　0739-26-9906　FAX　0739-25-3994
e-mail　houkatu@city.tanabe.lg.jp

【定例研修会】

『ケアやアセスメントに関するモヤモヤ対話』

講師　：　兵庫県立大学環境人間学部
竹端　寛　准教授

令和６年３月５日（火）13：30～16：00　和歌山県立情報交流センターＢｉｇ-Ｕ多目的ホールにて、自立支援協議会との４回目の共催研修が開催されました。総勢 68 名のご参加をいただき、日頃の支援でモヤモヤすることについて、介護支援専門員・相談支援専門員の混合グループで違う目線からの意見交換や話し合いを行いました。

アセスメントに関して竹端先生が強くお話しされていたことは、「アセスメントで求められるのは、共感や査定ではなく、観察に基づく理解であり、それがアセスメントの鍵となる。」ということでした。「アセスメントをする際、本人が出来ないことなど問題ばかりを見つけようとしていないか？その方の強みをどれだけ見つけ出せているか？同じ人をアセスメントしても、する側によって全く違うアセスメントの結果になってしまう。自分の価値観や偏見、先入観が入り混じっていないかに気付くこと、また自分の考え方の癖を知ることが大事である。」との解説をいただきました。

困難事例であっても、その方がそういうことをするのには、必ず何かしらの理由があるので、「なぜそういうことをするのか？」の「なぜ？」に目を向け、その行為に共感は出来なくても、それを観察し、理解することで支援する側の思いや方法が変わってくるというお話もいただきました。

最後に竹端先生からの言葉をご紹介します。

「支援に行き詰った際、障害・介護、多職種の垣根を越えて繋がることで、同じような価値観ではなく、違う視点での見方が出来る。相談したり、聞いてみたりすることで自分の中で抱え込まなくてすむようになる。無責任になるのではなく、より責任を果たすために、自分が今出来る部分、弱い部分を他者に開き、助けてもらえるチーム作りがとても大事。そのために支援者側のストレングスアセスメントも行いながら支援していくと良い。」

≪インタビュー≫
支援していく中での悩みや壁、モヤモヤが自分の中に湧いてくる理由や原因を掘り下げていく、とても興味深い研修でした。アセスメントは自身の価値観が反映されるということへの自覚があるか、ものの見方次第で全く違う支援になるということに衝撃を受けました。　（ケアマネ歴２ヶ月：男性）

■次回研修のお知らせ（※詳しくは事務局からのお知らせ、もしくは支部ホームページをご覧ください）

“西牟婁田辺支部”で　検索

☆令和６年度支部総会及び研修会のお知らせ
日　時：令和６年４月12日（金）13：30～16：00
場　所：紀南文化会館　１階　展示ホール（予定）
定例研修会：「介護報酬改定について」　※上記時間内で総会終了後に開催します。
講師：和歌山県介護支援専門員協会　　小長谷　恭史氏
※詳しくは、事務局からの令和６年度支部総会及び研修会のお知らせをご確認下さい。

事務連絡

◆Ｗｅねっとをはじめとする事務局からの連絡事項は、原則 FAX にて行ないます。
その際、以前に送付確認させて頂いた宛先（事業所等）に送信いたしますので、その後は確実にそれぞれの会員のお手元に届くよう事業所内でご配慮お願いいたします。※送付先変更等は随時、お知らせください。

※たくさんの方が会員になっていただくことで、協会の運営基盤が強化され、研修開催や意見の発信をしていく等の活動が支えられています。お近くに、入会されていない介護支援専門員さんがおられましたら、入会の声掛け、よろしくお願いします

（令和６年３月１日現在　西牟婁田辺支部会員数　181 人）